

# 堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第36号

発行：平成30年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)



## イベント報告

### ● ふれあいの森収穫祭 (平成29年12月23日)

今年も、一年の締めくくりとして、「ふれあいの森収穫祭」を開催しました。今年は天候に恵まれ、温かい日差しの中で開催することが出来ました。

約60名の参加者は、「森の学習」「餅つき」「ドングリの播種体験」の3つのプログラムを、それぞれボランティアさんから解説を受けたり、お手伝いしてもらいながら体験していました。森のあちらこちらで参加者の楽しそうな笑い声が響き渡っていました。



### ● 森の音楽会 (平成29年10月7日)

今年の音楽会は、Skylishさんを迎えて行いました。午前中に降っていた雨も止み、森の館前の広場では、多くの方がパウロンやアイリッシュフルート、カホンなどの民族楽器が奏でる音色に耳を傾けていました。

アップテンポの曲から、ゆっくりとした曲まで、北欧の音色が森の雰囲気合っていて、時折聞こえてくる鳥の鳴き声や風の音までが演奏の一つかのようなものでした。

周りの野原では、子供達が音楽のリズムに乗りながら踊ったり、草花を摘む光景も見られました。



## 合同消防訓練の実施

秋の火災予防運動の一環として、11月14日に茶山台消防署及び南消防署と合同で自衛消防訓練を実施しました。雨模様でしたが、ふれあいの森からは職員とボランティアの合計11名が参加しました。“森の館南東側の雑木林から火災発生、負傷者有り”という状況設定下で通報、初期消火、負傷者の担架搬送、避難誘導を行いました。現地で待機していた各消防署の公設消防隊に火災状況の報告を行い、消火活動と負傷者の救助活動を引き継ぎました。各消防員も、当施設での火災発生時の動きを確認していました。



### ● わらのクラフト (平成30年1月13日)

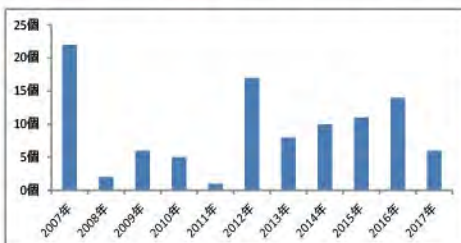
森の田んぼで育てた稲わらを使って、藁紐やコースターを作りました。

まず、藁を足の指に掛けて、紐を編みます。足に藁を掛けられなかったり、上手く縄に出来なかったりと、初めは苦戦していましたが、ボランティアさんに手伝って貰いながら完成しました。その後は、藁のコースターにも挑戦！昔の人のものづくりを体験することが出来ました。



## カヤネズミの生息状況とイベント

カヤネズミはネズミの中で一番小さく、体長は5-8cm、体重は7-14gしかありません。「カヤ」ネズミの名前通り、茅場(ススキや稲など)にソフトボール大の巣を造り暮らしています。ふれあいの森では、カヤネズミの生息地を維持するため、ススキの移植や管理を行っています。また、毎年11月下旬頃にNPO法人いっちゃんクラブの調査研究班が、園内で巣の確認調査を行っており、今年はススキ草原で4個、田んぼと麦尾橋横のチガヤ草地で各1個の合計6個を確認しました。開園の翌年から確認した巣の推移を見てみると、初めて調査を行った2007年が22個と最も多く、次いで2012年の17個でした。近年は増加傾向でしたが、2017年は減少しました。ススキは毎年1月に刈り取っているため、巣の数はその年に作られたものとなります。カヤネズミは大阪府下では準絶滅危惧種となっています。



その巣を活かして、2017年12月9日に初めてカヤネズミの巣を観察するイベントを開催しました。当日は、学生時代に当施設でカヤネズミの生息調査を行っていた滋賀県立琵琶湖博物館の澤邊学芸員にお越しいただき、園内の巣を観察したり、学生時代に行っていた調査活動についてのお話を聞かせて頂きました。

日々の里山保全活動と調査を継続させ、市民の皆様と共に、カヤネズミが生息し続けられる環境を維持していきたいと思っております。



# 南部丘陵の むかしばなし

堺自然ふれあいの森は、堺市の南に広がる南部丘陵に位置しており、古くから人の生活と密接な関係を築きながら、共に変化してきた里山です。園内には、田んぼやため池の跡が残されており、昔の生活を窺い知ることが出来ます。この周辺地域に昔から暮す方々は、この南部丘陵の自然とともに過ごしてきました。でも、月日が経つにつれて、自然も人の暮らしも少しずつ変化してきました。

当施設は「森の学校」として、様々な活動を通じて、里山文化の伝承を行っています。この地域の昔の自然や暮らしを知ることで、当施設の活動に理解を深めるきっかけになればと思い、今回、南区畑、鉢ヶ峯寺にお住いの方に昔のお話を聞かせていただきました。



畑在住  
Kさん 70代

畑在住  
Mさん 80代

鉢ヶ峯寺在住 全員80代  
Mさん、Tさん、Sさん、Oさん

## マツ林とマツタケ



今から60年以上前は、マツタケは道端に生えていて、季節になると匂いが辺りに漂っていたよ。芋ほり用のカゴ山盛りにマツタケを入れて家に持って帰った。そうすると、お父さんがウラジロ（シダの仲間）でマツタケを挟んで、堺や鳳の市場に売りに行ってくれたのよ。

子どもの頃は、大正池から泉ヶ丘カントリークラブ周辺はマツ林でした。毎年11月に「山あき」があって、この日以降は、どの山でもマツタケを探ることが出来たんだ。この日が来るとみんな一斉に山へ入り、袋いっぱいになるまで採ったよ。この時のマツタケご飯は、お米よりもマツタケの方が多くて、学校の先生のお弁当の魚肉ソーセージと、よく交換していました。私は魚肉ソーセージが食べたくて、先生はマツタケが食べたかったんだ。



堺公園墓地の霊堂前にあるミカン畑は、昭和30年頃はマツ林でマツタケが採れていました。ふれあいの森のそばにあるゴルフ場（堺カントリークラブ）は昔、私のお父さんが山の管理をしていて、その頃は一帯がマツ林で、山でマツタケを採って焼いて食べていたよ。

## 田畑の仕事

幼い頃、両親に連れられて田圃へ行く時は、木製の樽（ベビーベットの代わり）に入れられていたのよ。樽の中から、家族が田畑で作業する様子を見ていたのよ。片びきを牛に牽かせて畑へ行ったりもした。ふれあいの森周辺の川（第二豊田川・法道寺川）は水量は今と変わらないけれど、蛇行していたよ。川を堰き止めて田圃へ水を入れていたし、堰き止めた所が淵になっていて、魚を獲ったりしていた（ハヤみたいな小さな魚ばかりだったよ）。

小学生の時、12月頃にユリの根を掘り出して祖父に渡すとお小遣いが貰えたんだ。それを祖父が堺の市場に売りに行き、仲買人が買っていたそうだよ。お正月料理に使われるから、高値で買い取って貰えた。3本ユリの根っこが大きいんだ。昔は、公園墓地やふれあいの森周辺の斜面は、ユリが一面に咲いていたよ。復活して欲しいなあ。



## 生活のようす



公園墓地やふれあいの森周辺は、昔、雑木林とアカマツ林だったよ。雑木林では柴を採って、風呂柴として利用していたんだ。周辺にはミカンやヤマモモ、ツゲの木があった。昔は集落から大正池まで道があったし、今の槇塚台周辺の山から、大阪湾の海と船が見えていたよ。陶器山には「7不思議」があった。陶器山周辺には猫か猫の背中のような山があるとか、ササしか生えない船の形をした場所があるとか。他の不思議はどうだったかなあ。

60年位前は、バスは片蔵集落までしか来ていなかった。だから、この辺り（畑集落）の人は自転車で移動していたよ。富蔵の今の地域会館は、昔葉師寺だったの。そこに大きなクスノキがあって、そこから大阪平野や堺の町や港が見渡せた。現在のお寺の位置は、昔の場所から一段低い場所に移動したんです。

子どもの頃、毎年8月30日は大正池に家族でお参りに行ってきました。戦争に行く人が再びこの場所に戻って来るように、出兵するたびにその家族の人達が池にコイを一匹入れていました。

妙見山（現妙見山感慶寺）で、畑・鉢ヶ峯寺・富蔵・釜室の各集落の太鼓が集まる祭があったのよ。お祭りの時は、お寺の境内にやぐらを組んで、4つの集落から集まった太鼓を乗せて叩いていた。秋には、天野山の盆踊りがあり、そこで踊るための稽古も子ども達でしていたわ。近くに兵隊の宿舎があって、卵を持って行くと、缶詰と交換してくれたこともあったのよ。



昔、私の家の裏山で、梨を生産していたのよ。この地域では、私の所だけだった。毎年2000個ほど和泉の市場に出荷していた。野菜は堺の第一市場に出荷していたよ。梨栽培は農業を使わず生産していたので、労力がかかるため止めた。田圃周辺ではヤマユリが咲いていたのよ。ユリ根は採っていなかったけど、オニユリのユリ根は苦かったよ。小学生の頃、ふれあいの森周辺に、かごを持ってわらびを取りに行っていた。柴は深井に売りに行ってたよ。

芋ほりや草取り用のカゴは、家の周りがあった竹を割って編んで作っていました。子どもの仕事は「唐臼」でお米を踏む事。遊びに行きたくて、早く踏んでいたのよ。

田植えや稲刈りの時期は1週間学校が休みになり、家の手伝いをしてたよ。田植えの時は、糸をひいてどこに苗を植えるか印をつけてた。田植え前の4月に葉タバコを植えて7月に収穫し、その後に田植えをしていたよ。田植えは6月と8月の2回していたよ。葉タバコは、収穫後に乾燥させるための小屋で一昼夜、石炭を焚いて乾燥させてた。乾燥小屋は一家に1つあったのよ。

この辺りの農家では牛を飼育していて、麦ワラをご飯としてあげていました。牛泥棒がいて、2,3軒牛を取られた家があったの。牛小屋と家が離れていたのよ。夜に盗まれると気づかない。ただ、盗まれたあとは、お父さんが牛の足跡を辿って探しに行っていた。泥棒は歩いて盗むので、そんなに遠くには逃げていないのよ。牛は見つかったよ。



「住みたくなるまち、住み続けたくなるまちをつくるのは、私たち一人ひとりのちょっとした行動から。泉北をもっと魅力的にしてくれる人、募集します。」

2014年に、堺市からの呼びかけにより始まった泉北の魅力発信プロジェクトも4年が経ちました。

現在では参加市民自らが運営する「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト（通称：つむプロ）」として、泉北ニュータウンや農村部で様々な魅力をつくり、つたえる市民活動を展開しています。



緑道カフェ&ピクニック

プロジェクトでは、定期的なミーティングやワークショップを開催しており、新しい活動のアイデア出しや共同イベントの準備など、参加者それぞれの経験を活かして活発な意見交換が行われています。

例えば、公園を活用したピクニックイベント、緑道でのカフェの出店、泉北で採れたレモンを活用した特産品作りなど、泉北の眠った資源にスポットを当てて、新たな使いこなし方を提案したり、新たな魅力を創造したり、参加する皆さんのアイデアが、まちのなかで実現されています。

2017年からは、ふれあいの森の職員の方もプロジェクトのメンバーとして参加いただき、各企画にサポートいただいています。

公園や自然の中でのアウトドア活動を通じて、生きる育み、遊びが丸ごと学びにつながることをテーマに活動している「あそぶ×まなぶ DO OUR PARK」という企画では、防災という観点から公園でキャンプイベントを開催したり、2018年には、ふれあいの森で自然観察会や森の植物を使った草木染めのイベントも実施予定です。

泉北を香りで表現する『泉北香織りの郷』企画では、森の間伐材を使ったアロマオイルの試作品作りのサポートをして頂いたり、新たな繋がりや活動が生まれています。

堺市は、参加者の皆さんが生み出した様々なアイデアが実現できるよう、ミーティングに参加し、各種許認可や、広報協力、ノウハウの共有といった支援を実施しています。

今後も行政と市民が連携し、泉北のまちの魅力づくりを進めていくために、プロジェクトでは新たな参加者を随時募集しています。ご興味ある方は是非ご参加ください。

詳しくはプロジェクトのホームページをご覧ください。<http://senboku.wp.xdomain.jp>



泉北レモンで作った特産品



防災キャンプ



DO OUR PARKの草木染めイベント

●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

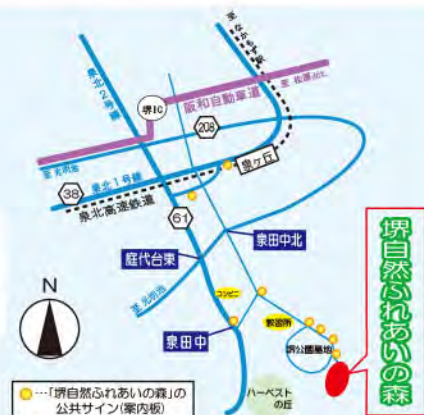
堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地  
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811  
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



交通  
案内

お車の場合は  
「堺公園墓地」  
を目指してお越  
し下さい。



堺自然ふれあいの森

発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)  
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所と  
NPO法人いっちんぐクラブの連合体です。